

雪の出ね跡

十四

雪の出ね跡
分館蔵

442
古
24

雪出羽道

平鹿郡

十四

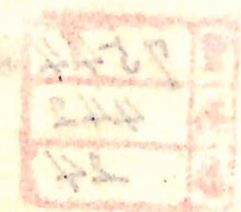
登	8054
函	442
番	11

登	7544
函	442
番	24

利刃河

平露

十日



平露

十日

平鹿郡

十四卷止

斗雲山

十ノ巻

雲龍山相道

○山川

やむけ山

あしくら山

やなぎ橋

山のすたろ

やまのすたろ

いしこ澤

あらし山

大ぬのふ江

そでりふ

平鹿部部

山内郷

土湊邑

平野津邑

筏邑

南郷邑

三ツ堂又邑

思津邑

小和川邑

大和川邑

丹波開邑

一

二

三

四

五

六

七

八

九止

○山内惣中

橋負

板橋 圮橋 箴橋

合六拾五橋 内小橋 三十七橋
大橋 二橋

家負 五百四拾戸

人数 三千六百十九人 外三人座當坊

馬 五百九十五疋

牛 四拾六疋 三千疋、武道邑在外餘村之

山内惣中

橋負

板橋

圮橋

箴橋

家負

人数

馬

牛

山内惣中 土測邑

○横手山内郷 九箇村郷

里長 勘重郎

○山内、出羽奥陸、いと多きなり、書紀、寒苗とあるを志か

訛傳ふなり、奥山の倭俗辭として山内とあるを雅言とす

あ、故に皇都人の寒苗と記し作し給ひしと相りしれり

されども、吾らと相ける書紀にもあるは山内と字をりし稱をす

村もみえ、八秋田郷を五十目山内河、是、即ち山内山内と云ふ

雄勝郡と吉野湯、沢田子内山内、手倉、椿屋、橋山、虎、

山家とも云ふなり、山内村と云ふ山内と稱ふなり、中国と

三又、黒沢、小沢、大沢、丹波、前、老、九、村、と云ふ、横手山内

といふ、雄勝、郡、山内、村、此、平、鹿、郡、山内、村、南、

と呼ばぬなり秋田郡の太平をおなむらひといひて太平といふ人々
 ありそや古唐水のありきり大江の谷の領ありて大江平といひ馴来
 つる其口癖とて蛇峠を太平山と字書きし稱て郷を太平と作りしを
 今の世にけて先平といふなり此よりゆへに此血赤村あり古赤といふを
 ちいへ弱槍赤といふありけり此よりゆへに此よりゆへに地を稱
 未だ血赤と作りて村の名といふなり村民は弱槍赤といふなり
 あめさきといふなりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 品類ありきりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 身は赤赤といふなりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 其城主といふなりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 熊野社 祭日四月十五日八月十五日そのありきりけりけりけりけり

斎奉りたり今その後平右衛門が斎主なり

稲荷明神 祭日前キと同じ是より小田島市町にありし御神
 まゐりていざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいざ

土淵邑

此橋村本仰ちれ山内の筆創め書べかりけり血赤邑は大河より
 山口より村始め血赤といふ書つて之を土淵といふなりけりけり
 河邊の三内村ありけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 小川の此川海に如き小流なり玉石を産す里内をといひて明王
 絶品ありきりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 其品ありきりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 午房胡蘿蔔丹百合蔓菁蓋ひといひけりけりけりけりけりけり

草を作りぬあゝ柳葉草椿葉晩葉たまたまあゝくらかひかりをこと
いそぎをえたるまゝあゝれなうれと仰ツグイダ座へ横手の市ひ
さく事久保田なる朝市といひやまけむり

○茂竹邑

家負古九軒
今八戸

○茂竹と雅言ミヤジコト之本人の実名とて重武とていひも茂竹と作

なり阿仁ササ寄延ヨリノゲといふ村あり頼信といふ人のいふく住つて久

く此所外ササ寺の跡ありとて古寺といふ寺といふ寺も古人の信あり

○山神社 茂竹山ミヤタケ座り 祭日 四月十五日 齋主 五郎町門

○根子邑

家負古二軒
今七戸

○此村の道のわたり小溝の端といふ大なる寺あり赤松あり近きあり人
此松三とせがれと植なりといふ今いへく植木といふとも思ふはる青

葉といふものありや藤あり葉ありや事とおもふ平鹿山内

根子村根子といふとて伊勢より文通フミなりといふしなと贈り来る事あり

いふに此松ミヤマ靈魂いせまゝて三とせむかり根子存りといふこと

やゑありあり根子といふとて童ワカバ小枝サエカ一ちを折ると人ありといふ南北

内の十狐村といふとて赤松ありとて十狐のお松子といふとて

う来るといふお松子といふ物語といふとて南部の根子郷ネノ照井大筑

前某とていふ家ありといふとて此山内へ来て住あれし南部

の郷長サトナをいふとて村を根子と呼びお松子小筑前と呼びて家のなり

子堀を廻りて家富照井小筑前とて人知れたる家ありとて末代とて照

井六之尉とていふ持なり武具調度いふとてせむとて雲村といふ山水といふ

○小田邑

家負古九軒
今九戸

○小田の麓を住む村の石を動かすに知れり

○下り邑はくふく山の山なり

○織福神社 此神神よねをすれは腰織織より上りて

織女からりうち群れてはめる神社にて此をくふくといふなり

○富福幡吹をとも作りやう旗吹清水といふなり

此社の祭日四月十五日十二月十五日 斎主 長太郎

○愛宕社 祭日十二月二十日 斎主 勘左衛門

○下り邑 家貞 古十七軒 今十八軒

○此下り邑より出村いと近く村中き銀店の大木 一丈は神なり

○棚戸明神社 棚の下よりまきり木戸明神よりまきり之根銀より木戸

五郎吉岡とて狐の社ありまたとて狐より木戸神あり此下り村

○座す木戸明神と大黒天と大汝市神の祭日十二月五日 斎主 佐左衛門

○此村餅田といふ家一戸あり古田の石屋といふなり古田の此田より

つる地より舟場の産八といふ一戸あり古田の廣て矢向峠の山脚なり

○舟場の産八といふ船場の字今残てあり古田のよりとておれなり

○舟場の産八といふ家より洪水より川岸崩れて産八が産八といふなり

○産八の舟場よりやありとておれなり古田の産八といふなり

○家あり其根よりつる大蛇といふなり神木なり此より倒

れなりその大蛇よりその産八といふなり身を化へた大蛇なり

○かた下り邑は楓下村の省語なりその地の底よりとて一なる

○出内邑

○家貞 古九軒 今十軒

出内古蝦夷辞の年斯理奈年ナキてふ事コトのううりきキと某ナニしり某ナニム
しりとして蝦夷国エゾクニよりなるなり斯理山ナキヤマをい奈年ナキ沃ウツクと云夷人エゾノヒトの言コトを
いふく此地ココに蝦夷エゾや住居スミたなり岩瀬邑イハセに通スルる成橋ナリハシなる

○板井澤邑

家貞イサヲ 八十八軒

蝦夷洲エゾノシマよりイタシギ沃ウツクといふ所ありまたあちちにも板井沢板井田石

処も板井の清水あり此板井沃ウツクに成橋ありて下り邑ウツクに往ユキ来キせり

○水神社 山陰ヤマインにませり 祭日マツルヒ正月ツキ十五日ヒ 祭主マツルヌシ古石屋門

○山神社 山の比良ヒラにませり 祭日マツルヒ四月ツキ十五日ヒ 祭主マツルヌシ郷中諸家

○山石瀬邑

家貞イサヲ 九十九軒

此岩瀬イハセと云他タにありと云くまよりいふも成橋ありたり

○稻荷明神社 萱野の内ウサノノウチに座り 祭日マツルヒ正月ツキ十日ヒ 祭主マツルヌシ八牙三郎

○鶴池此池岩瀬邑より東南に序島打長根ウチナガネあり此下コノ島打板

おと要事ヨウジ板イタと云みま此池コノイケの地方ミナトに往ユキ来キなり鶴の池ツルノイケのまたなるを和田

城シロと云いりむり和田の菓ワタノクサといふ城シロにありといふいふも板に要

害ガイのなきやなる此池コノイケの廣ヒロ東西五百間南北三百間斗トりてめぐりハ小松

いりくと生ナいたちて岸影キリカゲより遠近トウジンに山ヤマと云ちりありて春と

櫻サクラより秋と紅葉もみぢの色をいなり今イマハ松の梢サカサをいり秋春のなかめ

及およぶともあねとおねなる処トコロありさくち春のみより景カゲよりいふ

代しろもあつて鶴の池水ツルノイケノミヅと云た水ミヅのちホノ書カキをいり奥おくにもあつての

新泉ニハハまたもやつり射イリもすめりといふ

○平石邑

家貞イサヲ 八十八軒

此平石邑ヘイシノチより内瀬邑ナハセノチに行く成橋ナリハシに流ながる此あたりみあさり山ヤマに

山神社 弘和四年四月十二日十二月十二日 斎主 治左局門

○矢向峠といふ山は高き山法蓮の箭向峠藁峠白木峠とて此山内
に三つの峠あるが中の一の峠に矢向の手馴れおありとて矢登は
らから松前矢向におたが前越一峠といふ峰に神座あり蝦夷人此山を
踏ふといふおのれくが負たる鞍の矢一筋ぬいて此神お箭常奉と
舟まで此山の麓河原を通る蝦夷人此峰よりおわらうといふ矢射
をちちて手馴れする事一おた常へ蝦夷の島をたりとてその舟人蝦夷
のう矢を得て此山の下通るといふ磯をそれ沖中をそれ此神遠
ちげて奉とてさうたれ此箭向山といふ並に矢越が常とらうとて此山
矢向峠といふ事こそ雅言とさるるやあをよめて蝦夷人栖居しかりを俣
いたるやうさう国づのつり今に蝦夷に成りたれ矢登らうといふの海をいさ

まおの越後とて矢吹とてお部の録座も矢算の由来ありとていふは本
矢向の轉語なり此山内南の矢向に登りてうきみれの方を雲のまぐと雲
五枚とて黄金といふ大判五枚の料の黄金を一日振り出さうといふを凡や

○内湖是 家負 古軒

○内湖とて内湖といふ山は内湖といふ山ありとて内湖といふ山ありとて
つとていふ内湖といふ山は内湖といふ山ありとて内湖といふ山ありとて
落ておのれに似たれ一ツとておのれに似たれ一ツとておのれに似たれ一ツ
出ありとて此山とて内湖といふ山ありとて内湖といふ山ありとて内湖といふ山あり
れおのれに似たれ一ツとておのれに似たれ一ツとておのれに似たれ一ツとて
とて其山といふ人形の山といふ山ありとて内湖といふ山ありとて内湖といふ山あり
入りしうといふ山は内湖といふ山ありとて内湖といふ山ありとて内湖といふ山あり

話本に見えたりありし事や此内河内は盛橋あり近隣の村二瀬に通之

○二瀬邑

越後より三瀬といふ所を経てそこの新庄の邊ありとて旅人此處に至
れば此後二つを示す二瀬古く知るよしといふ事保郡邑記に家負三軒
あり今と一戸あり此二瀬より土河一河に極なり

○惣家負
○人負五百七十四人
○馬負

大沢郷

長土呂

矢櫃

大柳のルと子

山内の大柳あり

村堺とせり



山内郷、山口土淵邑

甲 大橋あり

亘正間横六尺
水際より高五斗

乙 大沢の柳周囲九尺

丙 今鉤梨木
周囲八尺

丁 血木山
血木支那

血木山はもと国に
ありけりかある冊

山寺に大泉の泉あり

小泉さへあり身を大泉

そと九金血血をの

その血子塩と山形

て小泉をくしをホ

とひりくとも

今和尙子膳と

すゑその手長

歩みみそをを

とて歌よあり

歌ありては

うちをち

あんと

て歩の詩の

わらあふ

小泉ま下

よめる

金魚や

血木の山

雪を根

生立

木かな

本

血木山

大橋山

古城跡

此寺をいふ奥まつた



庚

土御郷

甲 矢向峠、眺望

平野沢郷

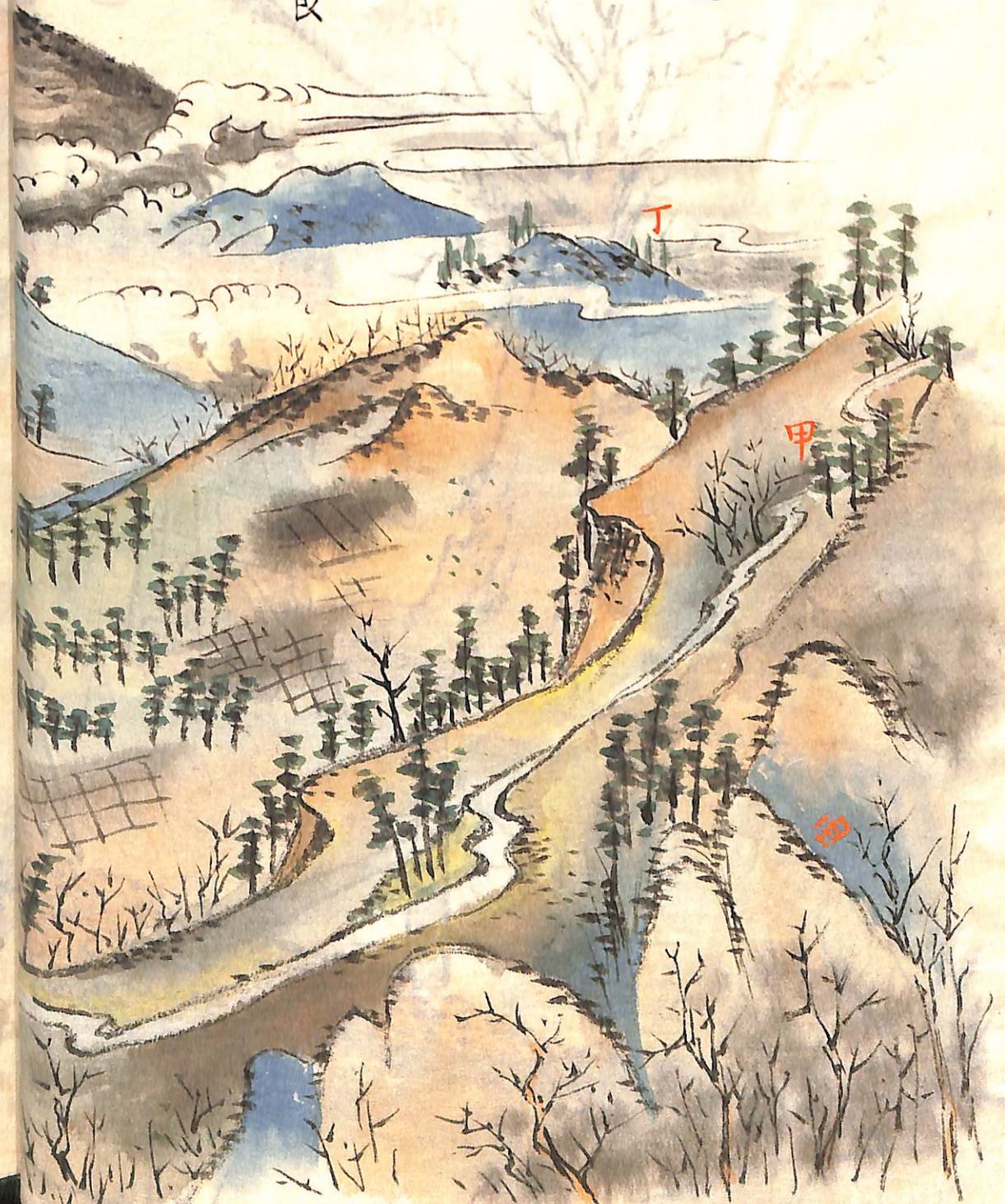
乙 岩野目沢

丙 菅生谷地

丁 藍婆山

戊 大日向嶽

己 五枚比良



笠前祭峠ハ

考本行子
つたふり

戊

己

乙

丙

丁



東

土洲郷

鶴が池

またのなを

和田城の沼といふ

城主のその

時世をあらに

甲 鳥うち坂を踰れい
乙 要害といふあり

内洲山川の

あまたありて

春水深く

さくさく影を

ひたし

秋に紅葉の

いろく

ふとみおれしや

とみちをさる

人あふ中あり

とさるふ

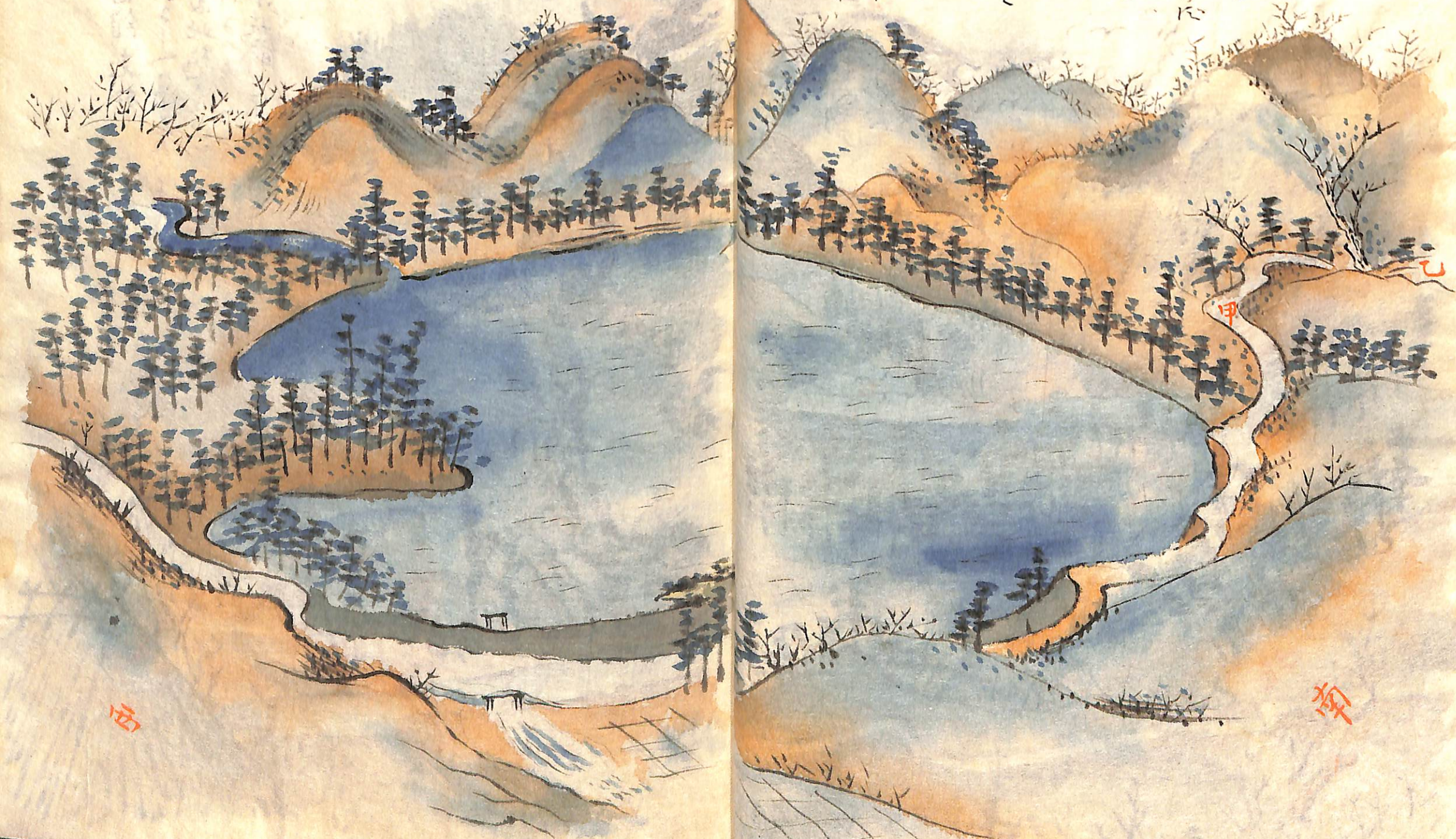
水

西

乙

甲

城



土洲郷 根子村

照井小筑前某の旧館、元松

此家よりある人そこのいふ「ハ学となつてし
外堀の跡ハ田に成りぬ此松女と化ていせなうでせうその時ハ
三とせ枯れた事本行つたふらふら秋ハ此松の下まゝさうの
茸生さうといふ 小筑前より赤い照井六之尉といひて
友は今在る



甲



土洲郷
照井小筑前某の旧館、元松
此家よりある人そこのいふ「ハ学となつてし
外堀の跡ハ田に成りぬ此松女と化ていせなうでせうその時ハ
三とせ枯れた事本行つたふらふら秋ハ此松の下まゝさうの
茸生さうといふ 小筑前より赤い照井六之尉といひて
友は今在る

土淵邸
四木邑、古城

甲 大館

城主、かきく人と
いふ事をいふ

乙 馬出し土堤など

いふ事をいふ
いふ事をいふ

甲

丙

此古柵、四木邑、

古里正小田島市郎共所

忠朝より旧宅

今、官舎

後、ちりあ

いふ大、城山

乙

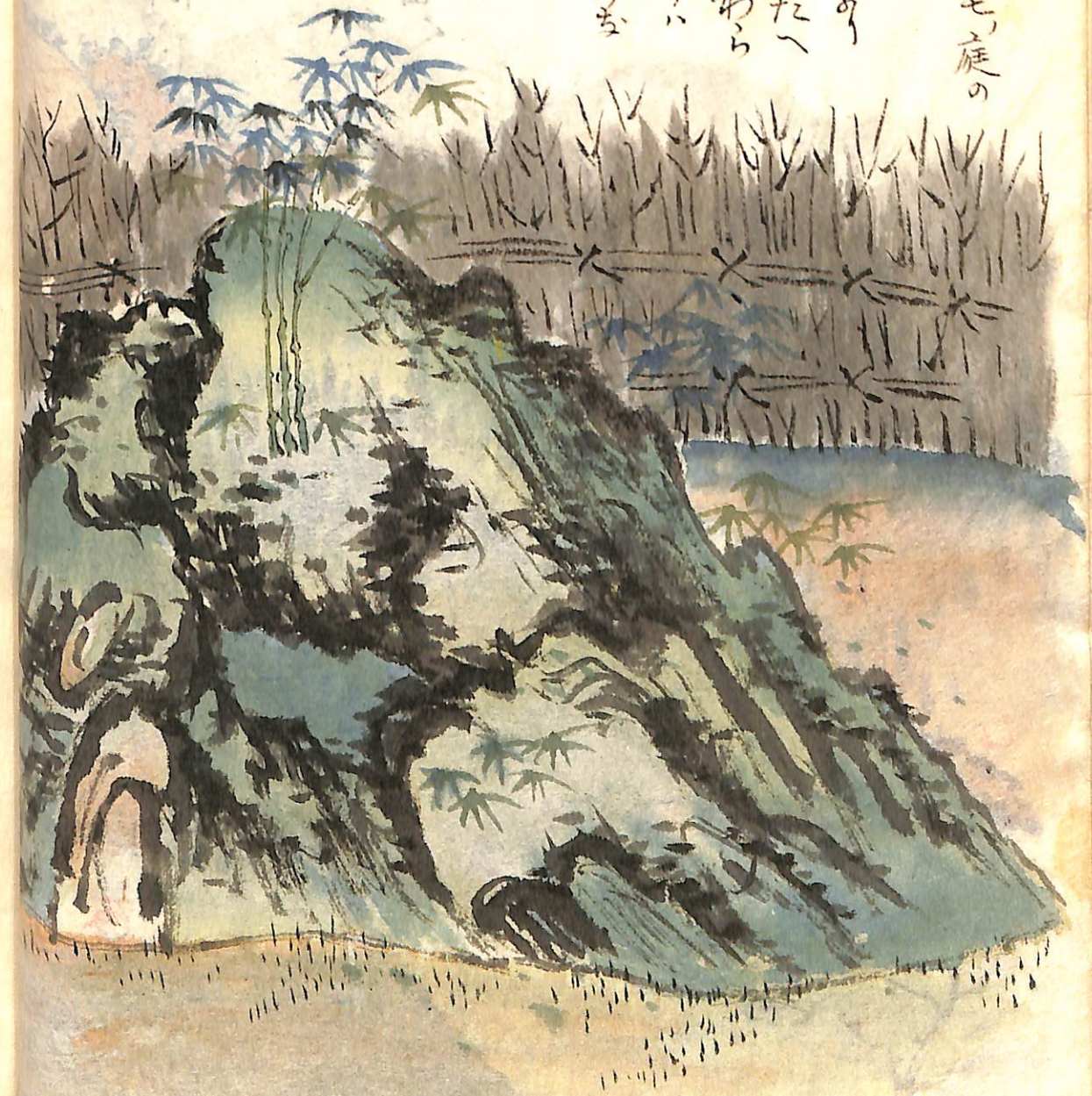
丙



小田島市郎兵衛古宅庭の
弱櫓根

此木は亭禄天文のころより
何うつゝを古木のつたへ
あり此木のあををりてさわら
木と村の石をあつて今うい
血亦てふ字作れど人かき
さわい木といつて

今も古木の
古木五心田園の古木
此古木の木



あーんやま

平野澤邑

あまのやま 平野澤郷 二 里正 並同

○平野澤平野比良と云ふところなる此平野澤に枝所今村
あり八ヶ村並て一郷と云ふところなり比良は澤と云ふなり

○榎野邑 家負 古十三軒 今六戸

○山間ヤママの野良と云ふ事と舎の野相の山と云ふことなりすえち北沢
目川カ流に板橋あり土間と平野澤より境をとりてり

○岩野目邑 家負 古十軒 今十戸

○相野と云ふ岩野目邑に通ふ土橋あり此流を岩野目川と云ふなり

○田神社 祭日四月十二日十二月十二日 斎主 澤中諸家

○此あたりの諸氏と其神と山と麓ハ山神と云ふことなり今大山祇
の神のことなりと云ふなり諏訪明神と云ふ春日明神稲荷明神など明

檜澤邑

家負今古
二十五軒

字^コの^コ槍^コ木^コと^コ火^コ避^コの^コ新^コを^コ由^コて^コ良^コ材^コの^コ最^コ上^コな^コり^コ秋^コ田^コ郎^コ馬^コ場^コ野^コ

大事といふ村ありし事のとて大沃と改めらばさる事ありといふ

藍波神社
三明岡に在り
壬午日
齋主
與五衣郎門

大沢木、莊上溝の郷中野の内末野と云ふ所なり、その他も多し陸奥の

山部月之配志羽の神在ス梅キナ山ノらむバといハ葺倉フクラ十ト却サカらリマ

○山神社
祭日四月十二日十二月十二日
祭主
勸兵衛

藥師如來社
平野河武道川落合川上子齋
祭日四月八日
齋主 治虎郎門

正念寺

○此寺の多を以て此処を寺邑ヤチといふ綱取山正念寺は西派本願寺宗の開基を釋ノヲ忍とふ本ト此寺草庵の如サマなりしか長禄元年九月十五日本山より寺号テヲノナたまはるて正念寺とふり忍南部の綱取ツチトリより処より出トコロて其の地を以て山号とせり開祖ヲ忍長寛二年戊申四月十日遷化○二世辨祐○三世善

四世辨覺 五世朵敦 六世了惠 七世奔道 八世了覺 九世善覺 十世朵敦 十一世祿美 十二世祖祿 十三世祖丹 十四世月觀 十五世辨

應十六世現住辨隨と僧岩見えたり

何孟邑

家負 今四軒

某と斗りあつて某孟ふ村あるを其の舞たるを八沢本莊猿田村の
枝師子六孟といふ村ありとて八位山の神供米を六孟を献ぐ武あるありとい
し事といひ小屋掛沢にあり近きの中野又邑に通ふ蔵橋あり

中野又邑

家負 今三軒

中野又邑の出口古谷地村に渡る武道りの流子蔵橋あり臍溪といふ所
経麻溪をたふさへ入るふちより古谷地村にたふさる

古谷地邑

家負 今十一軒
今三軒

古谷地の本に設谷地とてある村口を雪車月といふ山本谷の二井田
枝師子輕野月あり同右をへかうむ味といふ山村道路の蔵橋あり

稻荷社 祭日四月十日

斎主 郷中諸家

狼坂邑

家負 今四軒
今三軒

狼坂邑古谷地踏つ小坂といふ坂の所あり狼坂狼坂といふ所ありまた
仙臺に狼坂といふ所あり武道村に行かうと路に蔵橋ありぬ

武道邑

家負 今三十一軒
今三十五軒

村字姨石といふ所ありある所あり信濃の姨捨といふ所あり姨石といふ所あり
袋石といふ所ありいとおはといふ所あり方言たがう村に蔵橋ありぬ武道
といふ所あり葡萄多し処の所あり武道の假字あり上溝に武道といふ
村あり越後武道村あり多し

山神社 祭日四月十日十二月十日 斎主 郷中諸家

御免靈方水蠟樹膏藥あり 興吉といふ所あり是を煉製し

售之そを具へ山祥様の市夢想といふべきも與ふ言ふたみてゴモサウと
 いふ人みふと能くやうか沙石集油桶とわか唱つて販す
 妖あらしむし郡邑記云、雄勝郡湯野沢、武道村内小安沢
 奥助太郎は山境之とて人々を考ふ此武道村の源と東と味
 りといふ事ありて大日向山といふ黄金山之あり此山の巔
 一日大判五枚の料ありて今そより五枚の石を残
 りたる

○家負
 ○人負六百五十三人

北沢目川の板橋を中より
 土^甲関、錦と平野沢ノ錦より
 界を分りてり



平野沢郷

甲相野村

乙三岡村

藍婆神嵩

藍婆八十羅刹の一神之
そのあかし小野寺家の
建立日枝の山よりうつ
まつたところ

北

西

丙

乙

甲

南

東



柳

筏村

三



柳を

筏村

三

里正並同

○後、檣船カキ一艘あり、作カケり萬葉集の真木マキのついでに五
十太カキよりと見え、仙北郡センホクの枝原エダハラの常持トコモチ村あり、いつの世より
立派タツサハナ目の穴アナ洞ドウといふ大やうなる洞あり、此処に茂を埋めてさうな
土を運びて水田ミヅタを新銀ニウギンたきより、茂村の産ありといふ、此茂ハ終るし
て外に九箇村の小组コウがあり、

大場沃邑

家負
古十八軒
今五戶

大場^{オホバ}河^{カハ}を大^{オホ}煙^{タバコ}吸^スふ^{トナ}あり
 又^{ミナモト}、月^{ツキ}川^{カハ}とて^{ミツリマタ}澤^{サハ}と三^{ミツ}又^{ミツリマタ}より落^キ来^キて西^{ニシ}南^{ミナミ}の
 流^{ナリ}を村^{ムラ}に入^イる^ル柳^{ヤナギ}橋^{ハシ}より板^{イタ}橋^{ハシ}を掛^カけたり^{ナリ}そと柳^{ヤナギ}河^{カハ}より又^{ミツリマタ}ある^ル橋^{ハシ}の
 名^ナを稱^{ホメ}とい^ハふ^ル續^{ツギ}紙^シに経^{キヨウ}略^{リョク}鷺^{ササギ}座^ザ楯^{タテ}座^ザ楯^{タテ}石^{イシ}沃^{ソク}大^{ダイ}管^{カン}屋^ヤ柳^{ヤナギ}沃^{ソク}等^{トウ}五^ゴ
 道^{ミチ}云^{クモ}を自^{ミヅ}見^ミえたり^{ナリ}此^{コノ}考^{カウ}とて^トく^クる^ル記^キたり^{ナリ}と此^{コノ}柳^{ヤナギ}沃^{ソク}とて^トく^クる^ル地^チ也^{ナリ}

○^{ミカタ}水平権現として本地の十面菩薩の佛像を奉り此市神ともし田井の
水上大場沃山の界ある平水山は鎮座あり山の字を稱めて神号とな
れりともそを恐れしゆまなりとも字に稱へ奉るなり

祭日四月八日五月八日十二月八日 祭主 藤四郎

○山下稻荷明神 此神社水平山の麓に座あり神号をよみ
奉るなり祭日斎主ともおなり

○新所邑 家貞 古十二軒 今十四軒

○新入り多り村のありあり流を板橋かりて通ふ山を
○山神社川向水上原ともおなり 祭主 長吉

○伯耆澤邑

○あり伯耆某といふ人の住つるふもやまた其人の懇創なり

○村を去りてや南部の毛馬内は伯耆畑とて村ありあり
○あり

○阿羅羅仙人社 近世に仙人権現とまじり本社西向東之山に平

二丘山北三郡の領主小野寺前伊豆守藤原道宣公の草創に
より此仙人権現と陸奥と和賀郡の仙人峠に祀り市神形なり

後醍醐天皇の中代に此平鹿郡村を遷し奉るなりその仙人
近世に不灰木石といふ品産ていつてかかき麓に川流なりある

大輪湖小輪湖として両湖あり此大輪湖に鯉魚をとり其れを此
上より子許瀬事なりその名あり仙人権現といひて賤き言と

化て漢人より鯉魚一尾なりむす親子ありせしといふ孝子といふせ
よといふは阿羅羅仙と其を代りてその言を鯉魚といふと八言を言ふなり

かじ煙い身おろしあぶれいさきうちあついかうぬまをいせれ神のゆり
いひてその下なり一鯉のおほい果ては御贄もい献ぐたう了其事
をもて此所より鯉魚を村氏禁て飲食に用ふ事ありあくとり
石階なるごとく三所なりけり坂中より二神門あり此鳥栖の西より稻
荷明神の社あり古下辰大明神と申す御社之此石階の石材と南江
より力運たる石ありと云古縁部にもありや元禄のちり失たし
正徳四年より高橋仙太夫宮吉の記録に見えたり祭日ハハハハハ
九月九日同十九日同二十九日此三九日を神事なり
○下辰大明神社三三三祭日本社と云ふ賑ふ之十二月二十八日のりた
潔斎し本社を夜籠りて正月五日まで村氏ともあやかしことなる
神事なりつまる式あり別當高橋太仲藤原清尚○上祖仙太

夫某延宝七年五月廿八日故○二代仙太夫某寛永二年二月廿日○三代仙太某
宝曆五年五月廿四文化十二年三月二十日火災あり古記録焼失る傳ふ
四代目より三代の間実不知なり○七代大隅守清行寛政十年二月十日
八代丹後正清房文化八年五月廿八日○九代多門清成同年六
月四日○十代當司官高橋兵部清尚

○一野渡邑

家貞 古十軒
今六戸

此一渡といふ名ありて多しと二渡といふやとありてまゐり住勢
あり三渡といふ名ありて海迄其小川の潮汐を渡りて定
ふに下日みちいりてあらう此一渡の寺あり

○頤信寺 一向宗

○當知山頤信寺ハ本山東本願寺中山仙北郡六御村大悲山真光寺

○開基降誓天正三年甲戌二月十日遷化○二世降賢永應二年癸巳正月二日化文化八年三月十一日回録こあいて重宝過去帳七て○三世七八世歷代法名知れず○十二世了賢文化二年十一月九日○當時十三世現住寛りこ

○大堤邑

家貞 古八軒
今十三戸

○大堤小堤某境某境をどる堤とふをり秋田城下、賊地十二村、内りも堤とふをり事三代実録より見えたり

○三十番神社 末社春日大明神 本社、西山に在り

祭日本末社并四月八日九月八日 別當佐藤伴豫太夫
そのし此神社と大銅三年の享創といふやをり神永西義の
大杉と人尺の中より斗、周囲八尋、餘り雄勝、郡常法寺、古

杉同郡役内、嵩下、古杉よりをり方より、常法寺の杉と切只
いは庭八枚をり嵩の下、杉伐り口の中、廣き処一丈五尺、且り
此両本千五六百、年々と雲文の言りをかき、そをり知る阿なり
古木を空伐りたり、事ある老人のより、哭たり、その二
本の杉伐り者、祟をりけし、と傳ふ此三十番社の斎杉、いづをり
の年を歴たり、その小田島忠朝が元和八年、夏四月、書紀、三十
番社の縁記、當る郡代小野寺景道朝臣天正三年、夏、深山獵
して日暮、幽谷、道をふみ迷ひ、いとむさる、あるや、人々ちつとい
い、すす、ちり、景道東方より、呪文を唱つて、空よりあぶ、給、字三十
の龍燈下りて、昼の明さる、い、や、さ、て、や、ち、道を得、さ、城に歸り、かく
て後、善つし、美つし、一字を建立、龍燈三十降の神靈を三十番

此師社由緒いつれの市世何奈人の裔を祭る始なり
上より世の事ハ濱千鳥の跡に付たる事あるを委曲に知
へりやあねと里俗の云ひ継語に継たる山城玉膳本林に裔
及ぶ神、靈を此三本林の南の本林ある峰に移りて宮柱
太敷三鎮いまりとて刈薦の如れたる世間いたく衰廢
て社の跡もあく結果をさく知人もあくて退果し天正五
年四月十日横幸の城主小野寺遠江守并道朝臣篠原
小鷹守狩給ふ自ら市手するや鷹鳥の不意に手放して雲
隠飛ひ翔りて招寄術あるれ并道朝臣我の鷹をさし
とりて云ひさるち山賊の如くいふいふ事あるを捕
はれおひさるちをさるち馬羅張守部をさるちを捕

獲ておひさるちをさるち怒り市勢いふを宣ひけるをさるち
うち漸々八方より行り夕日の五ふりより木立繁
きこて小宮さるちする山陰に頭ありたる鷹三本林
の南の本林さるち小橋の梢にさるちありたるやさくをさるち
ぬる懐いりたるやさくをさるち甚もの旧なる白狐の本
の木蔭に蹲り躍て鷹のうをさるち守りたるをさるち鷹の如
くをさるちし此白狐の幸い給ふるをさるち其狐はあかく消
え失ふなり然るこ三本林山の景跡山城の膳本林に似合てありある
ハ屋さ由緒ありやと里俗に尋問せ給ふ八十餘歳の翁の云
ふるはあり天智天皇の大御世山城玉膳本林に鎮座神靈を
此三本林に移りたりとて其時供奉せし白狐をさるち住

○穴淵邑

家負 今一戸

河邊郡岩見山内枝原より穴淵邑ありあり此立浮目川の流
み穴淵として大なる淵なりてその淵より木を伐り薪を担きて土を以て
運イナタ水田を墾ヒラきたるよしある由傳へて自然次第ふ村の石より
さりとれ此穴淵を傳村の創ハシメありありハ七三 equal 一戸あり
といふ今もまた五戸在りといふ家一戸あり

○大穴邑

家負 今七軒

同流子成橋あり此邑の西南よりて流の浮山として高き丈ありて流
南に向ひて流つ見ゆべき処に又古鎧の蹟あり古寺の蹟あり由来をたず
伊藤稻荷大明神 齋主 奥右衛門
此寺在り上祖ハ下野人なり伊藤三郎宣道といひ武士

そのあり下野武大会山より猪鹿狼のとりあはるの獣追ひあはれ
逃ニゲマシ迷中よりしる白狐三郎宣道を目かけて走らせりせごまり身
縮チヂめて居たり宣道窮鳥懐に入る思をありその狐をいたゞ家へ帰
りおの栖む後の山よりあつぬ此曉の夢より髪白きおの枕上より
これいさめあやうなり今年を君の助けられさふいてうれし
嬉しきも吾と吉野山に存りが此必き事としてハ百四歳あり
ぬかゝる此ウケ鯛より君をたがひ奉りて居る行末を守りといふかたふ
ゆき夢おとちぬきと義宗義隆などか未流みや新田家
其臣として文永五年より陸奥和賀郡よりを經て新田氏を
羽平平鹿原大谷村にたり難スナ後一向宗門の寺を建てて開祖
たり今光徳寺是伊藤宣道より未流より土氏よりて天正五年八月

音同郡内降村に末におり家伝の後を山古木に傳たる中子縮前、

社を建てかり八面餘歳の白狐の神靈を斎すおつるそのまゝいづく大

やちち一樹生きたる下り洞ありき人をこゝに大穴とよびしが

自然村名といふつるまゝいづくおのから家し主人の余まゝ一向宗派の

流を改ておしこゝに住つれいづか祀の斎し白狐の社とうちあはれを

て、おとまゝそれを知る人おられおたひきくやある神祠といふと

あゝ建てよと得るおちりていづかよく欲すといふ

○熊野社 瀧の字に祭日 四月廿日 齋主 平右衛門

○植田野邑 家貞 古五軒 今六戸

○植田野村 おと植田野といふお田氏も村も多々あるおちり

○管神社 川の河まゝの山垣に庵り祭日 齋主 美千郎

此植田野に對馬某とて浮浪人ありて其男子善藏といふ小童ありしか

人々ありていづれいづれと童を劣りぬれに清書おちびる童心に耻を恥

十四歳を過り春正月二十日の旦管神の画像に神酒すゑ奉りて神

像におちひられいづれ清書おちびる親もさぞ世をぬめりとおは

しとていづれ我つとていづれ筆跡つちあゝ筆に心も力も及ぬ事と

ちとたあゝいづれいづれ人妻ももの書やぬみあひの道に入を給へとぬ

つておちひることいづれ二十歳も成りていづれ神祠を建て市神を斎

奉りていづれおちひる山田のいづれ明れいづれいづれある夜の夢は一文字

書て見よといづれおちひるうちあゝあゝいづれと見つて書すり筆とぬ

管神あり給へていづれいづれいづれ書すんたゝと見ていづれ覺ぬやと

起あて手ぬい神像に礼拝ぬりつていづれいづれいづれぬく一字書試

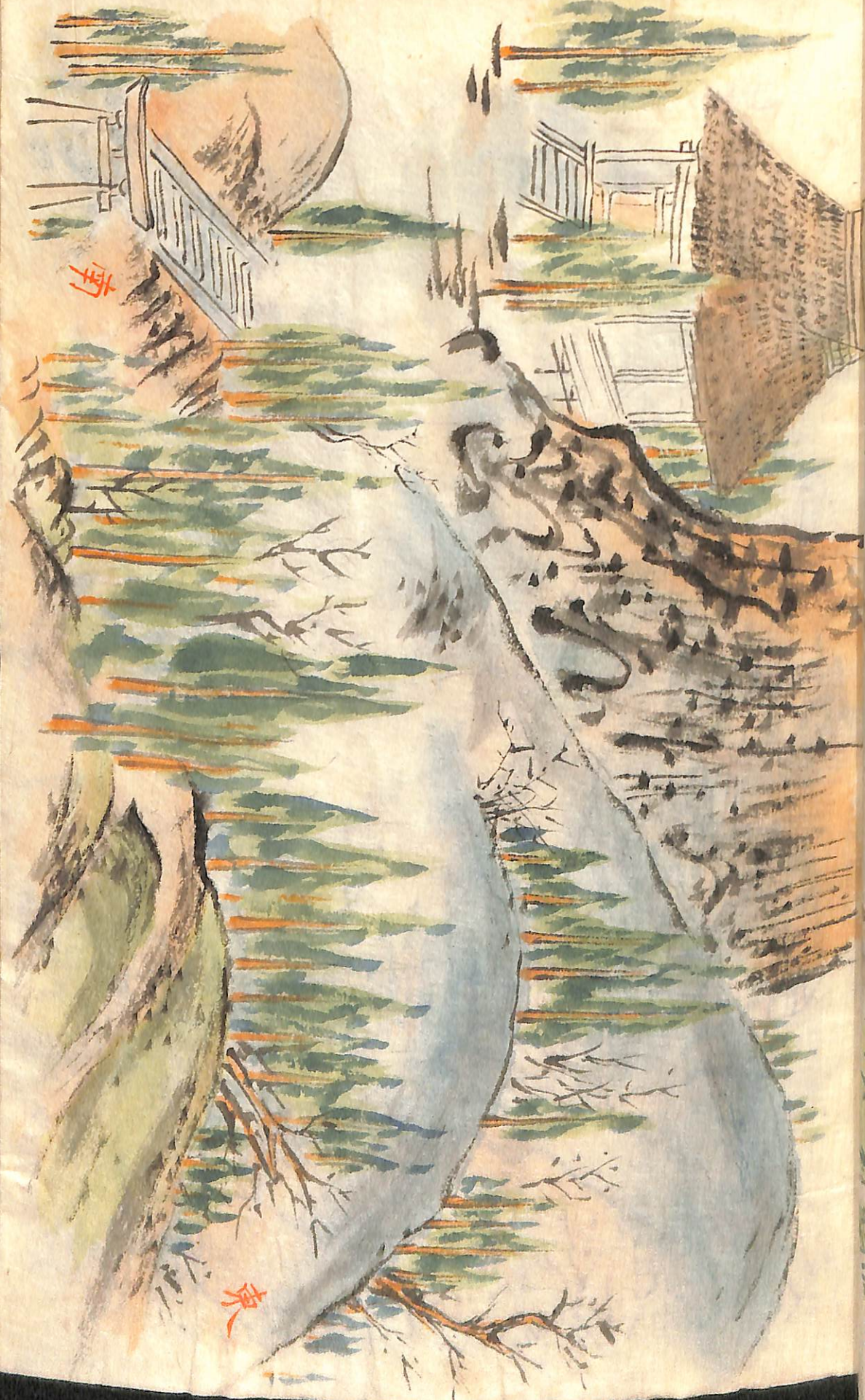


北

代鄉 其二

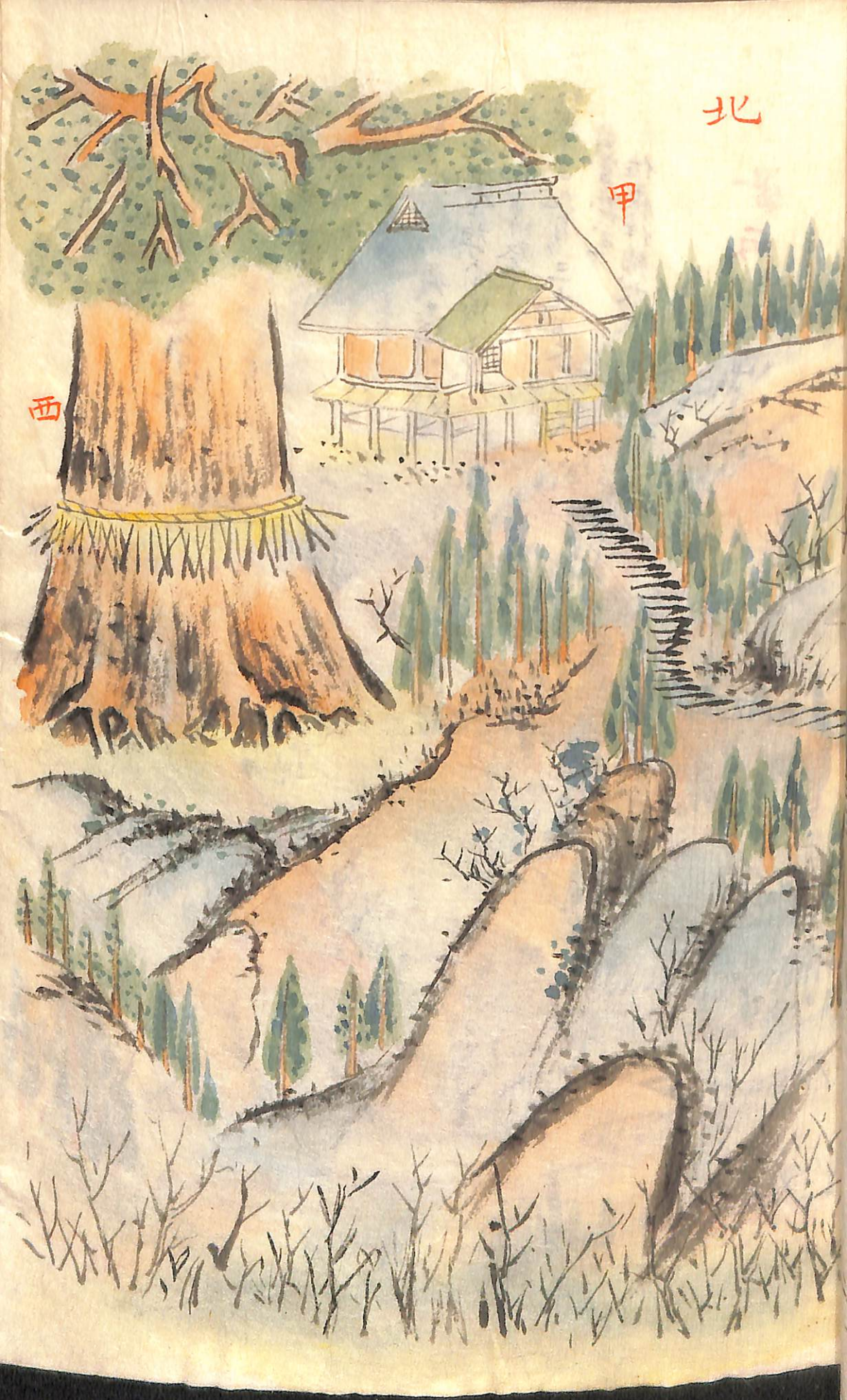
大堤村三松菴神社
奇樹周圍八尋
平鹿郡第一大樹之

西



東

南



筑郷 其三

伯耆沃邑

甲仙人權現社

下居乙社稻荷明神

東

筏郷 其四

甲 沃田邑 乙 熊野社

丙

南郷山嶽南江村より

白鳳二年神変大菩薩

開創の峰とて

筏邑より巽の方の中

峯社向東藏王権現鎮座

麓邑を旗南郷とふ

此山脚より登る

祭日九月、三九日

司官筏邑

佐藤伴頼太夫

丙

乙

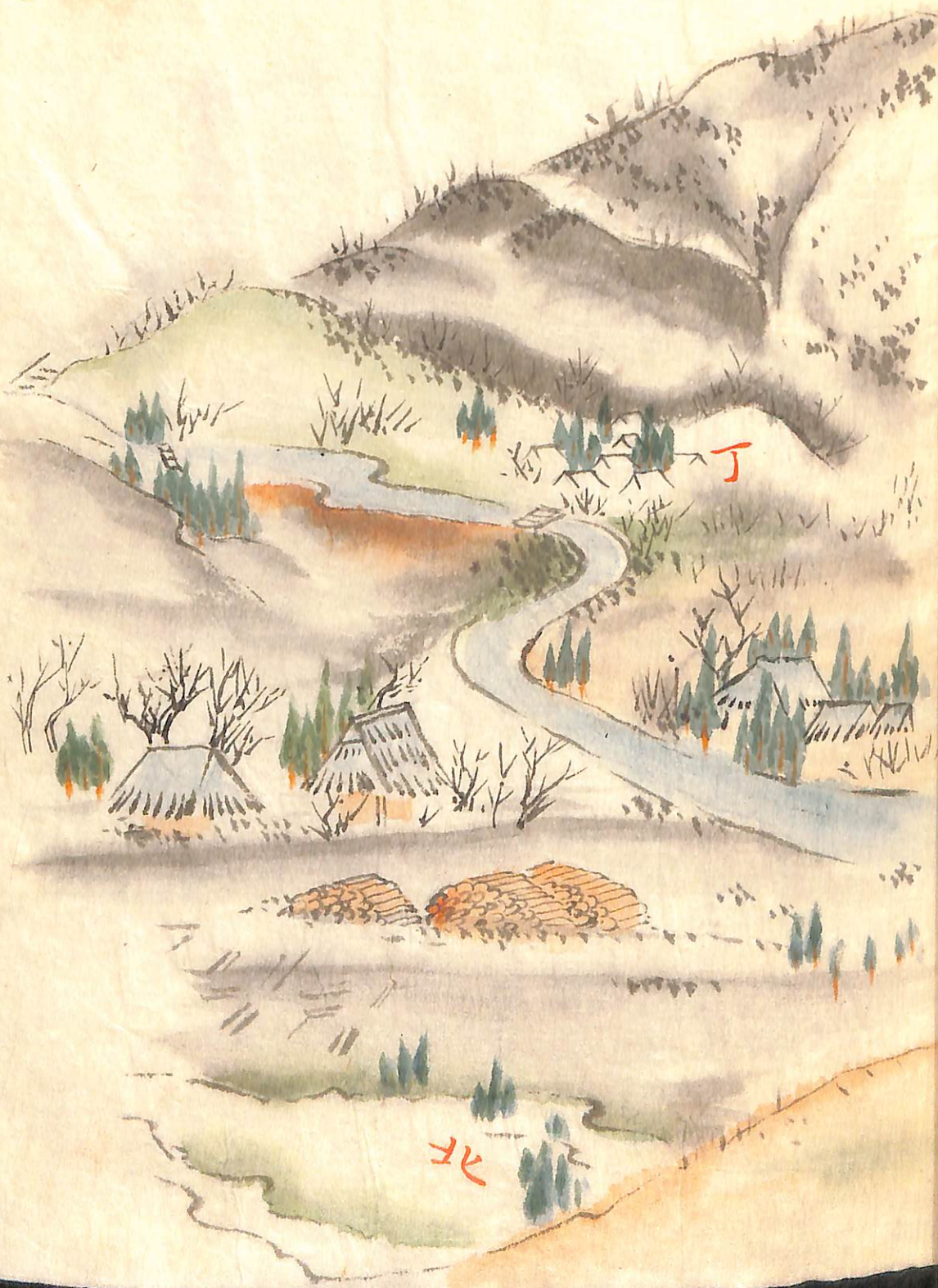
甲

西

東

丁

北



山のたなご

南郷邑

四



山の左に

○南郷邑

四

里正 並同

○南郷南江より作り美濃国子南宮嶽より陸奥公の鳴咄を
作しみな似たるなり此南江嶽いと高き大嶽にて吉野を
奪て藏王権現鎮座金峰山と云ふなり白鳳の寺創といふを
得三十番邸社より開闢なる事後よりよりさりとて大和の芳
野の創めを以て人々を白鳳年中と云ふ事ありしをいふ

○大平邑

家員 古十六軒
今十五戸

○大平大平多なる此邑の甘地と云ふ一戸有り甘地は水雨池とて是れ
をあらくす少くも有り甘地に行き茂橋河下南郷に行き板橋河

○下南江邑

家員 古十軒
今十二戸

○下南江より茂橋を渡りて中島邑に通ふなり

○中島邑

家負 古五軒 今二戸

○中島邑より三ツ屋村を行へ平地なりと近く路なり

○杉邑

家負 古八軒 今十一戸

○杉邑より雄勝川邑へ行へ是は平坦なり小流一筋あり

○觀世音社 祭日四月十七日十月十七日 齋主 五右衛門

○雄勝川邑

家負 古十軒 今九戸

○此雄勝川といふや山川の字ありとありくさすを雄勝田といふ

村仙北郎秋田郎より雄勝郡より古く雄勝村より男勝少勝小

勝といふ作より雄勝郡考へ官の処に委曲に記したり

○雄勝南江邑

家負 古十一軒 今七戸

○さるば中島邑よりさるばる此知南郎邑へ入る

○黄金峰藏王権現南郎獄の座り 祭日四月八日九月八日ある様

邑の三十番神の奥院ありて三十番神 祭礼同日別當佐藤伊豫太夫

此幡南郎邑より登る神階あり此邑に奥院といふ所より石材を産てあらづ

のあり作に石品堅実と云雄石櫃石階は良材に

○鹽匙邑

家負 古二軒 今八戸

○是本塩匙より出たる石之世に粟をやくとて実あり粟以て志保が

いを作朝彦飲む塩をすくふ此所ありの方言に是をシヨツカヒコとい

ふ実あり粟の蛤なりと云ふ此を飯匙といひて雅言に此村

は高九尺斗廣四尺斗の石柱の庚申と云ふ在りとも自然石

りて珍なり卒都婆

○丸志太邑

家負 古十軒 今二戸

丸^{マルシガ}志太^{マルシガ}いりちる^{マルシガ}あまや丸^{マルシガ}莖^{マルシガ}葉^{マルシガ}好^{スキバト}事家茶人のりてあそぶりされ
まれの寒^{アツキハ}玉^{アツキハ}の裡^{ウラシロクサ}白草^{アツキハ}すもその丸^{マルシガ}級^{マルシガ}を詔^{マロシガ}ゆるさむ級^{マルシガ}の亦^{マルシガ}
小豆^{アツキハ}菜^{アツキハ}椿^{アツキハ}菜^{アツキハ}あり小豆^{アツキハ}菜^{アツキハ}を丸^{マルシガ}級^{マルシガ}といふ^{マルシガ}二^{マルシガ}級^{マルシガ}といふ雄^{マルシガ}勝^{マルシガ}郎^{マルシガ}と
級^{マルシガ}といふ^{マルシガ}糾^{マルシガ}といふ^{マルシガ}品^{マルシガ}地^{マルシガ}といふ^{マルシガ}何^{マルシガ}も糾^{マルシガ}地^{マルシガ}を志^{マルシガ}り作^{マルシガ}り山城^{マルシガ}糾^{マルシガ}
信^{マルシガ}濃^{マルシガ}の埴^{マルシガ}級^{マルシガ}更^{マルシガ}級^{マルシガ}をとい^{マルシガ}級^{マルシガ}てふ村^{マルシガ}在^{マルシガ}多^{マルシガ}り本^{マルシガ}ト坂^{マルシガ}をい^{マルシガ}る古^{マルシガ}語^{マルシガ}とぞ

○ 糴子 頤邑

家負古今並二尸

○丸太村より箴橋を渡りて此邑に入、柏子瀬よりたゞち三野
又村よりつる之

南仰邑子橋救
板橋一
箴橋六
合七橋也

家貧

人負四百六十人

工
十
ヤ
マ
弓
投
嵩

三野又邑

五

ニ
サ
マ
弓
投
嵩

三又村

五

里正並同

○三ツ野又草保の所か三又と改められし事と三ツ又と
之ニ跨三岐^{ミミミ}やまをなす此道の東南に桂^{カウ}溪^{ウサハ}あり中
塊^{カクモリ}と云ふ山ありその溪水を塊^{カクモリ}と云ふ東北の方^{マカリ}中へ杉^{サキ}河^{カハ}此
杉^{サキ}河^{カハ}は母溪^{モセ}より塊^{カクモリ}杜^{モリ}の中へ此三ツの山河より流^{ナガレ}會^{アハ}その水
曲^{マヅ}りて三ツの派^{マヅ}の石流^{イシナガレ}なる村ありあはれ四ヶ村の枝^{エダ}所^{トコロ}なり三ツ又
総^{ソウ}保^ホの石之塊^{イシノカクモリ}を述^ツてつらぎて弓^{ユミ}投^{ナゲ}ヶ森^{モリ}といふ高山^{タカヤマ}狀^{カタ}の塊^{カクモリ}
森^{モリ}より投^{ナゲ}ヶ森^{モリ}と似^ニたりといふ塊^{カクモリ}森^{モリ}の形^{カタ}せし高^{タカ}岳^{タケ}より投^{ナゲ}ヶ
いづる武^ム士^シの何^{ナニ}なる弓^{ユミ}投^{ナゲ}ヶなるも塊^{カクモリ}森^{モリ}塊^{カクモリ}山^{ヤマ}塊^{カクモリ}石^{イシ}をなす
なる考^{カウ}おれり弓^{ユミ}投^{ナゲ}ヶ森^{モリ}より薙^{ハゲ}やあむそのありし後^{ノチ}三ツ又^{ミツマタ}峰^{ミネ}
の時^{トキ}源^{ゲン}氏^シ家^カ朝^{アサ}臣^{チン}みちのくよりいづる給^{タマフ}なるあり武^ム士^シの

ちひして眉尖刀を持て水草を打靡ナギサせりなりを以て水草を
おとけあへ横刀をぬいて床前ミサキをぬい右手み太刀り手よりみて
難ナギサをひき大將見給ひてあまひま今あり姓草薙ナギサギとすし草に
長刀氏ナギサギ薙氏ナギサギとて今仙北郡の率田ソウタ小太郎祖と眉券ナギサギ一草
薙ナギサギ長刀を書あま白衣あり和右馬祖と弓と刀をもと路なり
こゝち此草薙ハ薙ナギサギとふ字を看作りもて給ひ今草薙ナギサギをとり
書り左の三合の文字を揃ふ字の形すねと弓前ト刀を一字文モノジとの
此物語ありあまよく似たり

二瀬邑

土阿是より二瀬と唱ナラフ之此より二瀬とほ之茂橋からぬ東北の方
に具はあり此貝はより行ふ茂橋三つを後る

貝澤邑

家貢 古七軒 今五戸

貝澤雄勝郡同郡村なりおとより字に古本六郡觀音三
三所順禮託云地福長者実父者光頼真人男太島頼遠カ四男其子
保昌実父者貝沢三郎武道次男出家而号保昌房諸国修業
紀列熊野那智山参詣依觀世音利生三十三所順礼觀音大佛
師定朝為造阿耨梨教園用眼供養而本国皈云と見えたり其
貝沢三郎武道此地にや居鎮たりあり保昌房住つる処と大和川の
奥の福萬山に在りて字を保昌時とて山名なりか今と田といふけり
此事ハ福萬山の條に委曲に記たる之享保郡邑託子慶長九年子
本田と申すより仁右馬と申者初移云と見えたり此の
とみあるより一人住るなりとおりの好なり獨木橋より通ふ

○稻荷明神社 祭日四月十日十二月十日 齋主 茂左衛門

○開^キ邑 家^カ負^フ 古^コ三十三軒 今^{イマ}四十五軒

○郡邑記 家三十三軒寛永年中和泉^ノ申者南鄉村移須田美濃守へ忠進^シ開^キ立^ツ付開^キ村^ノ云と見えたり開^キ村^ノと下^シ邑^ノも下^シ邑^ノ十五戸も大野村^ノ西^ノ戸堤^ノ邑六戸小村多^ク箴^{セン}栢^{ハク}前後^ノ云々^ノ栢^{ハク}云々

○山神社 祭日四月十日十二月十日 齋主 太政大臣

○本^ホ田^デ邑 家^カ負^フ 古^コ三十三軒 今^{イマ}十二戸

○郡邑記云雄勝^ノ岩井^ノ村^ノ内馬場^ノ申^ノ処^ノ尾張^ノ云々引越^シ夫^レ本^ホ田^デ村^ノ云雄勝^ノ岩井^ノ村^ノ内上野^ノ村^ノ山^ノ境^ノ但^シ冷水^ノ沃^ノ里^ノ沃^ノ峯^ノ限^ノと見えたり箴^{セン}栢^{ハク}云々

○惣家負 人負四百十六人

いゝこ漫

黒澤邑

六

いし澤

○黒澤村

六

里正并同

○此黒沢邑の事享保郡邑記よりいふところを見えたるに

○上黒沢邑

家数古今并十八戸

○上黒沢の石子沢よりなる段橋より往後^{より}郡邑記に北方南部領湯田内菅生村ト山境と見えたり

○熊野社村の東南より 参日四月十五日 斎主 長尾馬門

○中黒沢邑

家数古今并二十二戸

○田代沢天狗森ハ中黒沢の字^{アサナトヨ}なり田代沢村郡邑記家数見六軒東方南部湯田邑内菅生村ト山境と見え天狗森村同二軒より天狗森今三戸田代沢今七戸あり

○観世音社 参日 四月十七日十二月十七日 斎主 長尾馬門

○下黒澤邑

家負 古二十五軒
今二十二戸

○郡邑託下黒沢村東方南部領和賀郡湯田村、以菅生村、
領水境山境と見えたり南江村、越う杉木の角を志すなり

たす橋なり

○白山姫社村の山東に座り奈日 斎主 八岳町

小松川邑よりたす茂橋二よりたすせり

○土黒川邑

○黒沢村

生五井町

あらねや橋

小松河邑

志らねは

○小松川邑

七

里正并同

○此邑カ東北中ノ白木峠^ト此峠ノ麓多村有黒河川を
一里下りて小松川^ト之^ト郡邑記^ト東、方南部領和賀、
郡越中^ト烟^ト内七曲^ト云^ト山^ト境南部街道有市領白木峠
関番所有と見えたり

○山神社 祭日四月十二日十二月十日 斎主十郎左衛門

枝郷^ト李^ト原^トとふ李原^ト之行^ト板橋^トとふ

○李原邑

家負^ト 衣二十軒

○李原李原李原^トとある村あり

○山神社 祭日四月十二日十二月十日 斎主佐平治

此社地^ト大^ト有^ト七葉樹^ト外山^トの社の椽^トにやまゝぬ